

動物の権利に関するトピックの経時的変化

構造トピックモデルによる推定

1230502 西元亜花音

指導教員 矢内勇生

研究背景

現在の日本において、動物の権利に関する議論はどのような進展を見せているのであろうか。動物愛護管理法の改正法を設定した時点、及びその前後期間で、「動物の権利」に関する議論がどのように変化するかを確認する。

研究目的

本研究の目的は、動物愛護管理法の改正法を設定することが、動物の権利に関する概念を考えることにどの程度影響を与えているのか確認することである。そのために、動物の権利に関するトピック、及びトピックへの経時的な影響度合いを推定する。これにより、動物愛護管理法第1章第1条に記載されている「動物の愛護に関する事項を定めて国民の間に動物を愛護する気風を招来する」という目標の達成状況を測るとともに、活発でない「動物の権利」分野の研究に対し、構造トピックモデルを用いた分析が研究手法の選択肢の1つとなりうることを示す。

研究方法

2012年から2022年の間にTwitter上に投稿され、かつ「動物」及び「権利」を文中に含むツイート15,000件を、構造トピックモデルにより分析する。

分析結果

「動物」及び「権利」を文中に含むツイートから、トピックを16個抽出した。トピックの一部は、経時的な影響を部分的に受けることが分かった。

結論

動物の権利に関するトピックを(1)感想、(2)動物の権利に重点をおいた主張(3)動物の権利以外に重点をおいた主張の3つに分けた。分析の結果、(2)に分類されるトピックは経時的影響を受けやすいことが分かった。トピックへの経時的影響が部分的であることを踏まえ、「国民の間に動物を愛護する気風を招来」という目標の達成状況について、Twitter上の意見からは「招来」の十分な継続効果を確認することはできなかった。しかし、「部分的」にあたる施行後と移行期間の2点においては「招来」を達成している可能性がある。以上から、動物愛護管理法の改正法の設定は「施行」フェーズ以降の期間、(2)に分類され、かつ主体的な取り組みを表すトピックに対し影響力を持つ可能性がある。